

---

# 彼女の死

ガイコツ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女の死

### 【Nコード】

N3788D

### 【作者名】

ガイコツ

### 【あらすじ】

彼女の亡くなったあの日初めて『死』の恐怖が分かった

**（前書き）**

読んでくれたら幸いです

僕の彼女は、今病院にいる。

名前は、西城なつみ

年齢は、僕と同年の23歳でまだ若い

肌は色白で体型は普通

とにかく笑った笑顔が可愛い

けど今は病気によって

痩せ細っている

なぜか笑顔に元気がない

もうじき自分が死にとゆう事が分かっているのだろうか？

なつみには、病名を知らせてはいない…………。

けど勘の良い彼女だ

きっと病名は、分かんなくてももうじき死ぬという事は、分かっているはずだ…………。

僕となつみの出会いは、友達で紹介だ。

まずはメル友から始めた。

その一ヶ月後になつみと初めてあつてデートした。

一緒にゲームセンターに行ったり夕食を食べたりした。

とても楽しかった

なつみを家に送る時、僕が告白したら笑顔でOKしてくれた。

その時の笑顔がまだ輝いて見えた。

そんななつみは、今病室にいる……………。僕は、なつみ  
なんて声を掛ければ良いか分かんなくて

なつみと会う時は、ずっと手を握る事しかできなかった．．．。

あの時なつみは、どんな言葉を僕に掛けて欲しかったのだろう？

なつみが天国に旅立つ日

なつみ両親から連絡があった

なつみの容体が急変したらしいから今すぐきてくれとの事

僕は、すぐになつみのいる病室に向かった。

なつみは、もう天国に旅立っていた。

両親が、泣いてるそばで僕は、放心じょうたい．．．。

なつみの頬に手を触れた時

初めてなつみの死を頭で認知した．．．。

これが『死』なのか？

とてつもなく恐ろしくて悲しい．．。

そしてなつみの事を世話してくれた看護婦さんが僕に喋りかけてきた．．．。

『なつみさんはいつもあなたの話ばかりで．．．あなたは、それほどなつみさんに愛されていたんですよ．．．。』

よくみると看護婦さんも泣いている . . . . .。

僕は、それを聞いて

やっと声をだして泣いた . . . . .。

なつみは、そんなに俺の事が好きだったのか . . . . .。  
なんだかなつみが俺の心にいるような感じがした . . . . .。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3788d/>

---

彼女の死

2010年10月8日11時16分発行